



つなぐちゃんもお出迎え

その愛らしい姿に声を上げる子供たちも。オープニングは鷺沼中吹奏楽部。親御さんも見守る中、迫力の生演奏に会場から大きな拍手が送られました。

コロナ禍によって三年のブランクがあった「村国の郷ふれあいの集い」が、十一月四日に各務小学校体育館で開催されました。市社協のマスクット「つなぐちゃん」が登場し、

「第七回 村国の郷ふれあいの集い」
四年ぶりに開催

地区社協
だより

村
国
の
郷



「鷺沼中吹奏楽部」

珍しい楽器アルプホルンが八本登場。さわやかな音色が会場いっぱいになりました。最後に、演奏に合わせてスイス民謡「おおブレネリ」を全員で歌いました。



スイス楽器「アルプホルン愛好会」

続いて、三組のグループがそれぞれに異国情緒満点の演奏・演舞を披露。

第58号
編集・発行
各務地区社会福祉協議会





フラダンス「ナレイ マカマエ」



南米音楽「GRUPO百十郎」

会場後方には小学児童の絵や習字が展示され、来場者の見入る姿が。また、会場入口付近では、共同作業所「星の村」による授産品販売も行われました。

今回は、中学生ボランティア数人がスタッフとして受付や器材出し入れなどで活躍しました。



児童の作品展示に見入る人

お楽しみ抽選会
中学生ボランティアも手伝い

南米音楽もまた珍しい民族楽器ばかり。「コンドルは飛んでいく」など馴染みの曲も演奏され、南米気分を堪能しました。

最後の舞台はフラダンス。十数人の踊り手が華やかな衣装で登場し、会場は一気にハワイの雰囲気になりました。



親子連れも参加

花火が始まる前の人出が最高潮になりだした夕刻、郵便局前の駐車場で盆踊りが行われました。

「男依音頭」「須恵器音頭」「おがせ音頭」の各務にゆかりの三音頭を皆が輪になって踊りました。あすか太鼓保存会の太鼓の音が曲に合わせて響き、飛び入り参加もたくさん。大変暑い日でしたが、参加者は配られた冷茶で一息ついていました。

おがせ池夏祭りで盆踊り

地域ふれあい広場

地域の交流をはかるため、各公民館を巡回して年間十回開催されています。

今年度は、男依健康体操、紙芝居「村国男依と壬申の乱」、紙コップフリスビー、ビンゴゲームと盛りだくさんの内容で楽しんでいただいています。

お菓子などの景品も多数用意されていますので、お近くの公民館で開催の節はぜひ参加してください。



紙コップフリスビーを飛ばして…



熱心に意見を出し合って…

地域コミュニティ会議

市の福祉活動は、地域福祉計画・活動計画に基づき展開されていますが、各地域の声を次の計画に反映できるように、地域コミュニティ会議が開かれています。

当地では十月二十一日に開催され、地域の良い取り組み事例や現状の課題について意見を出し合いました。

表彰

(十月三十一日 岐阜県社会福祉大会にて)

「**県社会福祉協議会長感謝**」

近隣ケアグループ須衛第三宮東

(十一月十五日 各務原市社会福祉大会にて)

「**地域福祉特別表彰**」

桑村多鶴子氏

鈴木由里子氏

「**ボランティア功労**」

近隣ケアグループたんぼほ (山の前)

近隣ケアグループすこやか (山の前)



各務の歴史 連載 13

「各務の領主は乾平右衛門」

文：各務原市歴史民俗資料館 長谷 健生

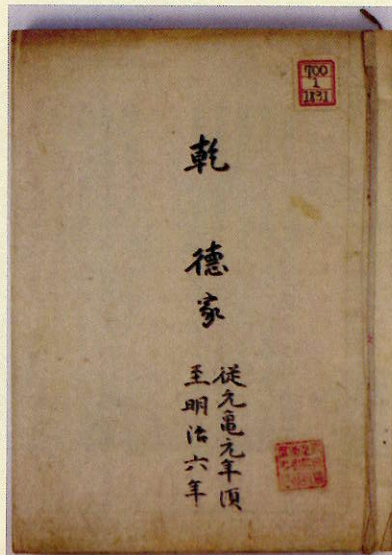
各務原市域には、戦国時代の古文書がほとんど残っており、誰が領主であったのか、詳細を明らかにできません。基本的には、稲葉山(岐阜)城主の支配下におかれていたと考えられています。

永禄十年(一五六七)八月、織田信長は斎藤龍興の稲葉山城を攻め取り、城下町の名前を「井口」から「岐阜」に改めました。その後岐阜城は九年間、信長の本拠地となりました。信長が安土城に移ると、岐阜城主は信長の嫡男・信忠となりますが、天正十年(一五八二)に信長・信忠が本能寺の変で没すると、斎藤利茂という武将が岐阜城を二時的に預かります。その後、信長の三男・信孝、池田恒興の嫡男・元助へと城主が移り変わっていきましました。

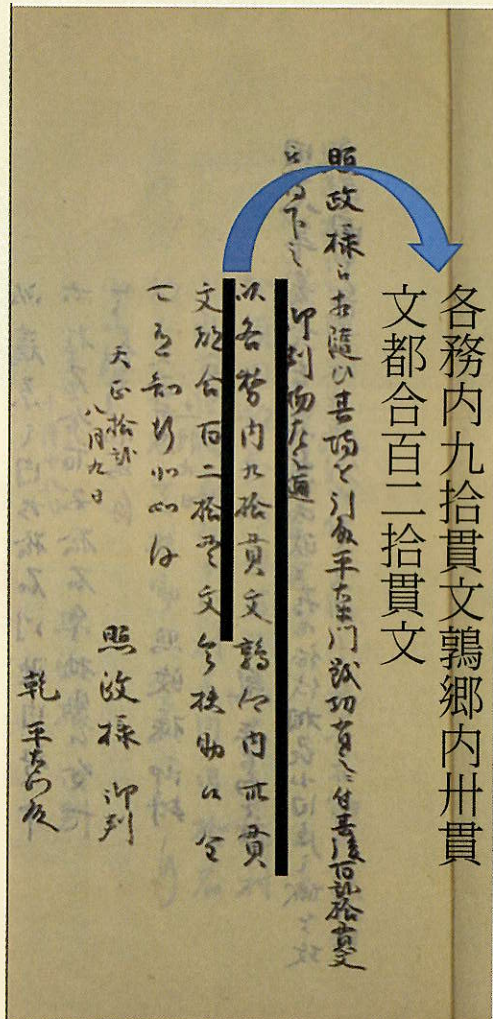
天正十二年(一五八四)四月、小牧・長久手の戦いで、池田恒興・元助の親子が討死すると、恒興の次男・照政が岐阜城主になります。

この年の八月、照政は、家臣の乾平右衛門に、「各務内九拾貫文、鶉郷内卅貫文、都合百二拾貫文」を与えました(資料1)。これは、乾平右

衛門が戦場で照政の窮地を救ったことへの褒美ですが、他の家臣たちにも同じ時期に、これまでの領地を安堵する文書が発給されています。当主が討死し、池田家家臣団が動揺する中で、照政の名前で再度領地を安堵し、家臣たちを落ち着かせようとする目的でした。



鳥取藩池田家家臣・乾家家譜



資料1 乾家家譜に記された池田照政知行宛行状(とっとりデジタルコレクション)

この後、池田家の領地は、天正十八年(一五九〇)に岐阜から三河吉田へ、慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原の戦いを経て、姫路・岡山・鳥取へと移り変わりました。そのため池田家の古文書は、岡山や鳥取に残っています。乾平右衛門の子孫は鳥取藩池田家の家来となつたため、「鳥取藩士乾家の家譜」という形で記録が残りました。乾家以外の池田家家臣の家譜からは、前渡・蘇原・佐良木(更木)・前野といった各務原市域の村々が、領地として与えられていたことがわかります。

各務地域が池田家家臣・乾平右衛門の領地だったことが、鳥取の古文書からわかりました。全国各地の古文書から、広く各務原市の歴史を調べていくことも大切なことと考えています。